

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

日立キャピタル損害保険株式会社（証券コード：ー）

【クレジット・モニター解除】 【変更】

保険金支払能力格付 #AAー/ポジティブ → AA
格付の見通し 安定的

■格付事由

- (1) 日立キャピタルグループの損害保険会社。議決権比率は日立キャピタル 79.4%、損害保険ジャパン 20.6%で、日立キャピタルの連結子会社かつ損害保険ジャパンの持分法適用関連会社である。当社の保険金支払能力格付は、保険金支払債務について日立キャピタルの保証が付されていることから、日立キャピタルの長期発行体格付と同水準としている。JCR は本日、日立キャピタルが三菱 UFJ リースと経営統合することを踏まえ、日立キャピタルの格付につきクレジット・モニターを解除し、長期発行体格付を「AA」、格付の見通しを「安定的」とした。日立キャピタルの権利義務の全部は新会社の三菱 HC キャピタルに承継され、当社の保険金支払債務に対する保証も継続される。そのため当社の保険金支払能力格付についてもクレジット・モニターを解除し「AA」、格付の見通しを「安定的」とした。
- (2) 当社は、94年に米国ユナム・コーポレーションにより設立された旧ユナム・ジャパン傷害保険が前身。04年に日立キャピタルが同社を買収し、現商号に変更した。事業規模は小さいものの、独自の事業展開を行うことでニッチ分野にフォーカスした戦略をとってきた。団体向け傷害保険などの LTD（Long Term Disability）事業と取引信用保険などの BAI（Business Activity Insurance）事業が収益の柱である。正味収入保険料の約 8割を占める LTD 事業では、主力商品である団体長期障害所得補償保険が安定的に成長しており、損害率の改善や新規マーケット・新規チャネルの開拓にも取り組んでいる。BAI 事業の構成比は正味収入保険料ベースで 2割弱と小さいものの、銀行とのアライアンス戦略や代理店との連携を通じて事業の強化を進めている。
- (3) コンバインド・レシオは 80%程度と一般的な損保会社と比較すると低い水準で推移している。もっとも、LTD 事業においては一部契約の影響によって損害率が悪化する可能性があるとして JCR はみている。また、BAI 事業では 1 契約あたりの金額が大きく、個別契約の動向が会社全体の収支に与える影響が大きい。新型コロナウイルス感染拡大による影響は現時点で大きくないものの、各事業の損害率の動向などを注視していく。
- (4) 異常危険準備金などを含む中核的な自己資本は、内部留保の蓄積などにより増加しており、総資産対比で 50%を超えている。ソルベンシー・マージン比率は高い水準が維持されている。資産運用面では、安全性と流動性の確保を優先しており、リスクは限定的である。円建社債を中心とする運用を行っており、株式や外国証券は保有していない。もっとも、当社の事業は LTD と BAI に集中しており、リスクプロファイルは一般的な損保会社と大きく異なる。事業規模の拡大や多様化、適切なリスク管理の下での引受の厳格化などを通じて、収益基盤の安定化を図ることが中長期的な課題となろう。また、組織規模が小さいため相互牽制などがより重要と考えられることから、当社が ERM 態勢の整備を通じて一段と経営管理の高度化を進めていることの意義は大きい。JCR では当社のリスク・リターンのお考え方の整理や経営戦略における ERM の活用について今後の取り組みを見守っていく。

（担当）宮尾 知浩・阿知波 聖人

■格付対象

発行体：日立キャピタル損害保険株式会社

【クレジット・モニター解除】【変更】

対象	格付	見通し
保険金支払能力（日立キャピタル株式会社保証）	AA	安定的

【参考】

発行体：日立キャピタル株式会社

長期発行体格付：AA

見通し：安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2021年3月16日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「損害保険」（2013年7月1日）、「親子関係にある子会社の格付け」（2007年12月14日）として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) 日立キャピタル損害保険株式会社
日立キャピタル株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・格付関係者が提供した監査済財務諸表
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であっても、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル